

なというふうな状況にはございますが、昨年度の状況と比べまして厳しい状況になっているというふうに思われます。以上でございます。

○町田義昭議長 7番、佐々木謙二議員。

○7番 佐々木謙二議員 質問の内容が少し多岐にわたり過ぎたかなというふうに思っておりますが、また、質問した事項でも少とり落ちもあった部分もあるようでございますけれども、財政の状況については、市長も私の認識と全く同じなわけですから、これから中期展望も見直しをしながらというふうにはおっしゃっていただけますけれども、新たな事業に取り組む部分もあるのかなというふうには伺ったんですが、新たな事業に取り組む場合には、やっぱり将来の財政というものをしっかり見通して、慎重にさせていただいて、健全な財政運営をしていただきたいなと、これについては別の機会にさせていただきたいなというふうに思います。

時間も時間でございますので、きょうの質問はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○町田義昭議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時59分 休憩

午後 1時00分 再開

○町田義昭議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

なお、大沼久議員から午後の会議に遅刻する旨の申し出がありましたので、許可いたしました。

また、宇津木正紀市民課長が午後の会議を欠席のため、鈴木広弥市民課補佐が出席しております。

また、午後の会議に浅野敏明生涯学習プラザ

館長の出席を要請しておりますので、ご報告いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

蒲生光男議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位3番、議席番号6番、蒲生光男議員。

(6番蒲生光男議員登壇)

○6番 蒲生光男議員 私が通告している質問項目は2点であります。市長以下当局におかれましては明瞭的確な答弁をお願いいたします。

なお、2点目の項目につきましては、必要があれば適宜市長より担当課長に答弁を振っていただきますようお願いいたします。

質問の第1点目は、11月5日に開催された東北高校駅伝競走大会についてであります。

この大会は、男子が第45回、女子が第20回開催という節目の大会として開催されたものであります。12月20日、京都西京極陸上競技場を中心に開催される全国高等学校駅伝競走大会の前哨戦でもあり、全国大会の出場権を得た各県の優勝チームには、全国での戦いに勢いをつけるレースとなることが期待されるものであります。特に男子は全国大会が60回の記念大会ということで、全国大会の出場権を得るチャンスもある重要な大会として位置づけ、開催されました。

コースは、2006年、秋深い季節に高校生ボランティアの協力を得て公認コースを取得した長井黒獅子ハーフマラソンコースで、当日は、9時30分女子競技開始から絶好の天候に恵まれました。沿道にも応援する市民が大勢繰り出し、初々しい高校生の選手の激走に熱心に応援する市民の姿は何となくすがすがしく、選手、ボランティア、応援する市民との一体感は、開催して

よかったの一言に尽きる感じを私は強く思った次第であります。

出場高校は、男子が28チーム、女子が29チームの合計57チームで、我が山形県は、男子が東海大山形、酒田南、山形中央、米沢中央に、オープン参加で置賜地区選抜チームの合計5チームであります。特に、置賜選抜に長井高校の選手が走りましたが、いい経験になったのではないかと思います。長井で開催してこそ、オープン参加でも走れる機会が得られたもので、貴重な体験だと思います。

女子の山形県参加高校は、山形城北、上山明新館、酒田南、東海大山形、山形北、それに置賜選抜チームの6チームでした。選抜チームに長井高校から1選手が走りました。

57チームによって競い合われた大会でしたが、新型インフルエンザで、男子で秋田大曲高校、女子が福島県学校法人石川、同じく福島県の会津学鳳の3チームが欠場となり、残念としか言いようがない結果となりました。

成績は、男女とも青森山田高校がアベック優勝というすばらしい結果となりました。一昨年、男女とも仙台育英高校が優勝しておりました。今では青森山田、仙台育英が男女の最強チームのようですが、前々回の女子では山形城北が2位に入りましたし、42回大会では優勝しております。41回では3位、40回、39回では2位という成績でした。男子優勝の青森山田は2時間6分29秒と、2位の仙台育英に2分59秒の大差をつけて優勝しました。距離にすると1キロ離された結果となりますので、圧倒的なタイム差ということになります。女子は青森山田が1時間12分20秒と、2位との差14秒の僅差でした。

男女57チームは、長井市を始め、白鷹、飯豊、南陽市の各宿泊施設にほとんどのチームが連泊したようであります。長井市内には27チームが宿泊しました。11月に入る前から選手がコースの試走をしている姿を目にしておりますから、

連泊したチームでは5日くらいは宿泊していたのではないかと思います。宿泊先一覧を見ますと旅館でない施設にも宿泊したようですが、民泊でも可能なのであれば、協力する市民もいるのではないかと思います。宿泊先について、せっかく長井市で開催するのですから、可能な限り長井市内に宿泊できるように検討すべきではないかと思います。長井市の宿泊先を見ても、まだビジネスホテルなどもあり、宿泊できる余裕はあったのではないかと思います。後ほど文化生涯学習課長から、宿泊の実態、何チーム、何泊、延べ人数、料金、宿泊先の決定に至る経過、食事、ふろなどについて説明をお願いしたいと思います。県縦断駅伝のときも申しましたが、そのときのさまざまな教訓は生かされていたのでしょうか。この評価はどうかについて説明を求めるものであります。

大会運営そのものについての評価を市長、教育長から、課題は何か、総括をしていると思いますのでご答弁をお願いいたします。

県内予選会は10月最終日曜日に当たる24日に開催されましたが、この予選会を長井でとの話を聞きました。テレビ中継が入るために、市内目抜き通りを走らせたいというのが放送局の考えのようではありますが、私はかねてよりスポーツイベントを推進する立場から、ぜひ実施してほしいと思っております。現在の状況と、受け入れるために解決しなければならない問題を説明いただきたいと思います。スポンサーが長井市の有力企業でございますので、ぜひ市民の関心を高めることから実施していただきたいと考えております。市長もしくは教育長からご答弁をお願いいたします。

スポーツ都市長井を推進し、市民一スポーツのみならず、日常生活の中に恒常的にスポーツを取り入れ、健康を先取りして、病気予防のまちづくりを行う観点から、これを進める気概が市長にありますか、考えをお聞かせください。

市のたばこ税以上に病気になった場合の医療費がかさむ、これは喫煙による経済的損失、これは厚労省試算もされていますので、健康的なまちづくりを推進する必要性からも提案したいと思います。

次に、質問の2点目ではありますが、新政権下における事業仕分けについてお聞かせをいただきます。この質問は多くの議員とで重複しておりますが、そのことも含めてよろしくお願いたします。

質問の内容は3点であります。長井市にとって事業仕分けの影響がどのようにあるのか、本市で実施してきました業務の棚卸しも私は事業仕分けの一個かなと思いますけれども、これが生かされているのか、あるいはまた、ISO 14001の取り組みについては市が独自で維持・改善するとしておりますが、これにも生かされていないのではないかの3点であります。

鳩山政権誕生から約3カ月近くが過ぎました。首相の献金疑惑など、内閣支持率を下げる要因が多々あるのにもかかわらず、依然高い支持率で推移している理由に事業仕分けが挙げられます。事業仕分けは公開で行われ、インターネット中継もされました。予算の決まり方を公開したのは初めてという新鮮さと、仕分け人と説明員とのやりとりは特に関心と呼んだと思います。また、むだ排除や天下り役人の高額報酬、基金残高などの埋蔵金の国庫返還など、評価の高いものと思います。

一方、説明できない方も悪いのですが、一刀両断に切られて廃止の決定をわずか1時間で決めるやり方に対しては、いろいろ批判もあったようであります。山形大と県など産学官による有機EL研究が文部科学省の地域卓越研究者戦略的結集プログラムに選ばれたものの、政府の行政刷新会議の事業仕分けでプログラム自体が廃止と判定された問題など、簡単に廃止と決定されてはたまったものではないという思いがい

たします。

また、次世代スーパーコンピューター開発や大型放射光施設Spring 8研究への補助金、国立大学法人の運営費など、科学技術、学術関連予算の多くが削減、凍結と判定されました。利根川進氏らノーベル賞を受賞した科学者など6人が11月25日、政府・行政刷新会議による事業仕分けの結果を批判する緊急声明を発表しました。声明は、「仕分け結果が現政権が目指す科学技術立国とは逆の方向を向いている」と強く批判し、若者の科学技術離れや研究者の海外流出を懸念、仕分け結果をそのまま予算に反映するのではなく、科学技術の専門家の意見を聞いた上で適切な配慮をするように要望しております。「将来に禍根を残すことのないよう強く望む」とメッセージはしております。

理化学研究所が開発を進める次世代スーパーコンピューターについて、事業仕分けの際に、「本当に世界一になる必要があるのか、2位ではだめなのか」という仕分け人からの意見に対し、利根川氏は皮肉を交えて反論。「世界一を目指してもなれないもの、世界一を目指す意気込みでやらないと2位にも3位にもなれないことを理解すべきだ」と言っておりました。

事業仕分けの功罪はいろいろありますが、以降については11月27日、産経新聞の記事の引用であります。

「メディアの関心が集まり、うらやましい。おれにもやらせろという気がする」。仕分け作業最終日となった27日、会場の国立印刷局市ヶ谷センターの体育館を視察した自民党の河野太郎衆議院議員は、大勢の傍聴人を見て記者団にこう語った。河野氏は、党のむだ遣い検証プロジェクトチームの座長。ことしの夏、一部省庁の事業仕分けを行い、国営のマンガ喫茶とやゆされた国立メディア芸術総合センターの建設を廃止と判定したのだが、注目されなかった。一方、今回の仕分け作業は連日1,500人超の傍聴

+

者を集め、インターネットアクセスも瞬間で最高2万4,000件にも達した。民主党が仕分けの俎上にのせた事業は449。その一つ一つについて、省庁の各担当者が目的や予算規模を説明し、仕分け人がその効果やコストについて聞きただしていった。予算編成のプロセスは国民の前で初めてガラス張りにされた。予算案のだめ出しを食らう官僚たちの意識も少しずつ変化していった。予算を死守することに懸命だった官僚側は、仕分け作業の序盤、「一刀両断だ」などとぼやきばかり目立った。だが、後半は、「議論してみないとわからない部分もある」と前向きにとらえる感想も聞かれた。

さて、事業仕分けでは政府の行政刷新会議、議長が鳩山由紀夫首相の作業グループは27日、平成22年度予算の概算要求のむだを削る事業仕分けを終えました。仕分け作業による財政効果は1兆6,000億円超で、独立行政法人の基金や特別会計の剰余金など、いわゆる埋蔵金の国庫返納要求額が多くを占めました。政府は事業仕分けの結果を踏まえ、過去最大の95兆円に膨らんだ概算要求から3兆円以上の削減を目指しています。

さて、質問の第1点ですが、政府の事業仕分けで長井市の事業に影響が出ないのか。特に防災公園などの事業について計画どおり進んでいくのか。見通しをどう見ておられますか。新年度予算策定の時期に入っていますが、国の方向性が定まらなければ長井市の予算も組みにくいのではとっております。長井市の予算編成に当たって現在どのような進捗になっているか、お聞かせをいただきたいと思ひます。有機EL研究のなどは、県だけでなく新産業の育成の観点からも継続の必要性を訴えていかなければならないと思ひますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

2点目の質問ですが、既に業務の棚卸しを実施し、民間委託できるもの等の選別も終

わっていますが、その後の取り組みが見えません。市長も同行されて学んできたニセコ町のファイリングシステム、志木市や太田市の事例、業務改善や職員の士気高揚や行革、低コストで品質の高い仕事の推進、努力が正当に評価される職務体質への転換をなし遂げるためにはどうすべきか、今後の取り組みの考えをお聞かせいただきたいと思ひます。

事業仕分けは民間人も入って行われました。長井市が実施した業務の棚卸しの評価は民間人が入ったものではありませんが、再度民間の方も入れて、かつ公開でやられてみてはどうかと思ひますが、その気があるかないかについても市長の考えをお聞かせいただきたいと思ひます。

3点目ですが、平成11年6月議会で、ISO14001の認証取得をして、維持・改善するためにPDCAを回していかなければと提案し、認証取得をその後したわけであります。維持のための費用削減をし、以降については市独自で進めるということだったと思ひますが、いつしかISOなど忘れ去られてしまったようであります。朝令暮改とでも言いたくなる気持ちですが、新潟県妙高市では、ISO9001の認証を取得していますが、仕事の質の改善を進めているあかしでもあると思ひます。今後の対応など何かあれば伺いたいと思ひます。

以上で壇上からの質問といたします。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 蒲生光男議員のご質問にお答えいたします。

議員からは、大きく2点ほど質問いただきました。

まず、第1点目の東北高校駅伝競走大会の総括についてということでございます。私からは、大会運営をどのように評価しているかと、また、課題は何かといったこと等々についてお答え申し上げます。

まず最初に、大会運営をどのように評価しているかという点でございますが、競技運営につきましては、高体連と陸上競技協会が行いましたが、開催地としての受け入れ体制は、長井市実行委員会を組織いたしまして関係団体の協力を得る体制を整えるとともに、市役所内に庁内準備委員会を設置するなどして、万全の協力体制を整えながら臨んだところでございます。

大会当日は、議員からもありましたように、天候に恵まれまして、大きなトラブルや事故の発生もなく、競技運営もスムーズにできたというふうに考えております。また、大会運営面でも一昨年に引き続いての大会ということもあって、市内の各団体の協力を得ることができ、まずは成功裏に終えたものというふうに思っております。

なお、宿泊についてでございますが、県の縦断駅伝の教訓等々も踏まえてということですが、やはり宿泊についても、東北高校の実行委員会の方を通じて民間のエージェントが指名を受けて全部取り仕切っているという状況でございます。残念ながらそういった意味では我々行政が民間のエージェントと直接、市内が半分ぐらいでしょうか、あと白鷹、飯豊、南陽の方にやはり半分ぐらい選手、監督等々宿泊したと思っております。それらについての、何ていうんでしょうか、仕切りの手伝いとか、そういったところは残念ながら行政では入れない状況でしたので、これは次回の宿題として、どういうふうにしたら、例えば長井市内にできるだけ多くの選手、監督に泊まっただけのような仕組みをつくれるか、市内の旅館組合などとも意見交換をしながら、これは検討の余地があるというふうに思ったところでございます。

次に、課題でございます。これは教育長の方からも答弁あるかと思いますが、大会運営における課題といたしましては、実行委員会本部と長井市実行委員会の打ち合わせ不足、これは否

めなかったかなと思っております。大会当日の連携がスムーズにいかなかったなというふうに思ってます。また、広報や協力のお願いは前回の反省を踏まえて行ってきましたが、選手や応援の方などが数多く利用する特にコンビニなどへのお願いが欠如しておって、ちょっと不十分だったかなという反省がございます。競技運営面では、交通渋滞の発生する箇所があること、あるいは町中を通らないことなどから、コースの見直しを含めた検討を行ってはどうかと考えているところでございます。

次に、各チームの宿泊状況と経済効果は、これは文化生涯学習課長に答弁いたさせます。

来年の県予選会についてでございますが、県の高体連陸上競技専門部から、現在山形市などを会場として開催している山形県高等学校駅伝競走大会を長井市で開催したい旨の申し入れがありました。加えて、蒲生議員からもありましたように、県の女子駅伝大会もぜひ長井市でと、これはテレビ放映もするというようなことでございますので、これらについては毎年でございますが、いいチャンスではないのかなというふうにとらえておりまして、これは前向きに考え、引き受けることにしたところでございます。

次に、スポーツを取り入れてまちづくりの一層の推進をという点でございますが、現在策定しております生涯学習振興計画では、市民一人スポーツの推進、また競技スポーツの振興、総合型地域スポーツクラブの創設ということを挙げております。特に市民一人スポーツの推進は中心となる取り組みとして考えておりますので、その具体的な取り組みを進める手段として、現在ある西根ときめきスポーツクラブとともに、体制も整えながら、新たな総合型地域スポーツクラブを創設する中で取り組んでまいりたいというふうに思っているところでございます。

それでは、次に、2点目の新政権下における

事業仕分けについてお答え申し上げます。

まず、長井市の影響はあるのかという点でございます。そして進捗状況についてもご質問いただきました。これら予算の進捗状況については後ほど財政課長の方から答弁いたさせます。私については、防災公園についてのみお話しさせていただきますが、防災公園の計画というのは基本的には学習プラザ建設当時からあったものでございまして、そういった意味では20年以上が経過していると。運動公園を整備しなければならないということは、一つの課題であったわけでございます。しかし、土地の取得そのものも今まで土地開発公社にお任せをして取得してこなかったと。しかし、借換債を平成17年に3億円で行っておりまして、それを26年まで再度借り入れを起さなきゃいけないということから、26年までには整備しなきゃいけないという縛りが出てきたところでございます。これをまた先に送るのか、あるいはここでこういった、特に駅伝を始めとした陸上競技が、東北の大会であったり県の高校の駅伝、あるいは県の女子駅伝の開催地として長井がこれから毎年あるいは隔年ごとに行われるということを考えて場合に、やはり決断しなければならないということで、これは不確定ではございますが、いろいろ八方手を尽くしまして、非常に有利な制度を見つけたところでございます。これは一昨年でありましたが、ことしになって再度検討して、相当有利な制度だと、このチャンスを逃したら二度とないということで、22年度採択に要望したところでございます。

現在のところ、都市公園の事業については、削減はありますが、大幅なカットあるいは中止といった情報は入っておりませんので、順調にいけば来年度採択が可能なのかなというふうに思っております。ただし、新政権の方は平成23年度以降、いわゆる補助事業とか交付金事業というものを一本化して、一括交付金という制度

にしたいと、23年度以降というお話でございますので、これらの補助制度がどうなるのかといったところはまだ不透明なところがあり、期待してる反面、ちょっと不安もあるわけでございます。

次に、(2)でございますが、本市で実施した業務の棚卸しも事業仕分けだが、生かされているかということでございます。

先ほどの長井市の影響も含めてでございますが、午前中の蒲生吉夫議員のご質問にお答えいたしました。影響があるのは47事業、うち明らかに影響、削減とか中止、そういったところが明らかになったのは30事業、ほとんど影響はないだろうと思われるのが7事業、不明が10という結果でございました。蒲生光男議員がご指摘されるように、やはり予算編成のプロセスを明らかにして透明性を高めたと、そして情報公開の理念からもいって、大変このたびの事業仕分けという方法は、大いに国民からも評価を得ておりますし、今後ともそういった手法については我々市町村も学ばなければならないというふうに思っているところでございます。

そういった中で、長井市で実施した業務の棚卸し、これを事業仕分けをするかどうかということでございますけれども、その後、委託可能性調査というものを行いまして、集中改革プラン実施計画に盛り込まれてきております。集中改革プラン実施計画には、委託可能性調査でリストアップされた項目のうち4割ほど、およそ60項目が平成22年度まで委託可能として計上され、そのうち20項目ほどが計画を完了しております。また、業務棚卸し調査とは別に、予算査定に先立ちながら、内部職員によるものではございますが、事務事業総合評価調整会議というものを開いております。そして個別に事業の優先度合いの判定を行っておりまして、予算編成作業の基準としているところでございます。今後とも民間委託の推進を図り、市民との協働、

業務の効率化を目指し、事業を進めてまいりる覚悟でございます。

なお、先ほど委託可能性調査でリストアップされた項目のうち4割ほどしかしてないということですが、残りの6割のうち大部分が余り、何ていうんでしょうか、項目としては、例えば私の公用車、市長車の公用車の運転手を民間委託するという項目などが含まれております。しかし、一見効率的のように思われますが、なかなか移動中に業務の内容を話しすることができなかつたり、あるいは電話等々もなかなかしづらいついか、そういった、民間委託として項目を挙げておりますが、なかなかなじまない部分もございます。そういったことで、やれるべきものはまず22年度まで、来年度までやれたものというふうに思っております。

次に、ISO14001の取り組みも生かされていないのではないかとございまして、これにつきましては、平成14年の3月に長井市環境方針を市役所の内外に表明いたしまして、環境に対する目標をみずから設定し、計画立案、実施、点検、見直しを繰り返すというPDCA、組織のマネジメントシステムを構築させながら継続的に改善を図るものとして取り組みを始めたところでございます。この策定については、蒲生議員始め、当時、フォーラム21の議員の皆さんからご協議いただいたわけですが、私もこれに協力したつもりでおりますので、何としましてもこのシステムを生かさなければならぬというふうに思っております。

以降、平成18年度までに定期審査を受けながら継続した経過がございまして、平成19年度から、大部分の市町村となっておりますが、自主審査という形で、現在はそういった形で推移しております。この間、市の職員は自己チェック表を毎月提出すること、あるいは環境の視点から業務を見直すことが求められているので、いやが応でも環境に対する意識が高まったというふ

うに認識しております。また、成果として、仕事の成果を評価し、その仕事を見直すという視点が養成されたことがあります。ISOでは、計画、プランの実施、ドゥー、点検、チェック、見直し、アクションのサイクルで継続的な改善を進めることになっております。行政では一般的に計画と実施に力点が置かれまして、点検と見直しが軽視されがちでしたが、それを改める好機になったと思います。こうした経験は現在も業務の中に生かされており、マネジメントサイクルを回すことは、職員に意識づけられているというふうに考えているところでございます。

長井市においても政策の今後決定の際は、行財政改革推進委員会などの委員会で意見をお聞きする制度はございまして、そこに諮問する案件は市の組織のマネジメントサイクルで検討されたものをお諮りしております。また、傍聴についてもご案内しております。今後はこうした仕組みを市民の皆様積極的にお知らせしてまいりたいと思います。

私の方からは以上でございます。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 蒲生光男議員のご質問2点について、ちょっと市長とダブる面が出てきますけれども、お答えをしたいと思います。

1番目の大会運営をどのように評価しているかということでございまして、今回の大会では、長井市実行委員会の予算で歓迎ののぼり旗の設置や選手、役員への芋煮のサービスなどを行っており、お越しいただいた選手には歓迎の気持ち伝わったのかなというふうに思っています。12月4日に第2回の実行委員会が開催されましたけれども、そこでも大変好評でした。

生涯学習プラザ内では観光案内や地元農産物の販売も行いましたが、応援の皆さんはコースに出ておって、考えていたよりは販売数は少なかったようです。

また、沿道では大変多くの方に応援をしてい

+

ただきました。特に百間道路では応援の人が多く、しかも長井高校の生徒が応援していたことなど、高体連からの評判も大変よかったということでした。

競技運営の面でも大きな問題があったという話はお聞きしておりませんので、成功裏に終了したものと考えております。

反省点としては幾つかありますが、高体連を中心とした実行委員会と長井市実行委員会、庁内準備委員会の連携不足があったと思います。また、長井市実行委員会、庁内準備委員会ともにその役割についての説明が不足したこともあって、十分機能しなかった面があったのではないかと感じます。このような点については、再来年の開催に生かしたいというふうに考えています。

課題ですが、大会開催についての広報は、市報、沿道となる地区へのチラシ配布、ポスターなどを通して行いました。しかしながら、選手や市外からの応援の方々を利用する施設、先ほども市長の方からありましたが、特にコンビニへの対応が十分でなかったと反省をしています。

コースについては、高体連の方からはこのままでよいという話もありますが、台町十字路から丸八鉄工所の丁字路間ですね、交通渋滞があり、できれば町中を通るコースに変更したいという考えもあります。

また、生涯学習プラザにいと役員以外は競技進行の状況がよくわからないということがありますので、この点を改善するには課題もありますが、十分な検討が必要というふうに考えています。

来年度の県の高校駅伝についてですけども、これ、私、直接かかわっていますのでお答えをします。

県の高体連陸上競技専門部から、現在山形市を会場として開催している山形県高等学校駅伝競走大会を、コース上の交通安全対策やテレビ

放映に係る課題などから長井市で開催したい旨の申し入れがありましたが、課題もあります。10月から11月にかけては長井マラソンとか地区の駅伝などもありますし、東北大会と重なった年は大変になると思います。それで体協や陸協、または交通安全協会、体育指導委員会などの関係者のご理解もぜひ必要ですので、高体連の方には極力自主運営をしてほしいという旨の条件をつけて、長井市で引き受けたいということにしております。

この大会はテレビ放映もあることから、マラソンや駅伝のまちとしてPRする絶好の機会でもありますし、市民のスポーツへの関心が高まることを期待しているところです。以上です。

○町田義昭議長 那須宗一文化生涯学習課長。

○那須宗一文化生涯学習課長 蒲生光男議員のご質問にお答えいたします。

各チームの宿泊状況でございますけれども、今大会には51チームが23の施設に宿泊をいたしました。長井市内には13施設に26チームが宿泊をしているところでございます。宿泊と昼食の弁当に関する業務につきましては、先ほど市長からもございましたとおり、高体連が民間の旅行業者と契約を結んで委託しておりまして、配宿、宿を決める作業ですが、配宿作業も業者が直接行っているというようなことでございました。ただ、業者の方のパンフレットには、配宿は長井市を中心にして行うという旨の記述もございまして、その面では配慮をさせていただいたのかなというふうに思っております。

宿泊料金でございますが、1泊2食つきで諸税を込みまして、ホテルタイプで9,500円、旅館タイプで赤湯温泉の場合ですと8,500円、長井市内は旅館タイプで7,500円というふうなことでございました。昼食については1食700円か500円のどちらかというふうなことのようです。

このように高体連はお願いしておりますけれ

ども、一部のチームでは業者を通さずに直接市内の施設などに申し込みを行って宿泊をしていたところもあるようです。

宿泊の日数でございますが、こちらの配宿をした経過から、その施設等に聞いたところの数字でございますが、ほとんどのチームは11月3日と4日の2泊でございます。一部のチームは1泊と、または3泊というふうなところがありますが、ごく少数でございます。

宿泊施設数とチーム数は、長井市内が13施設26チーム、先ほど申し上げましたが、飯豊町が1つの施設で4チーム、白鷹町が2つの施設で5チーム、赤湯温泉が7施設で16チームというふうになっています。

宿泊の延べ人数でございますが、全体で1,219人、ただ、この人数には直接申し込みを行った施設の数字は入っておりませんので、もう少し多くなるのかなと思います。長井市内には613人、延べ人数でございます。飯豊町が70人、白鷹町が90人で赤湯温泉が446人となっております。

このたびの宿泊関係でございますけれども、苦情までとはいきませんが、食事の内容やふろを使える時間帯などについていろいろご意見をちょうだいしています。このたびの大会の実行委員会の委員には市の旅館組合の代表にも入っていただいておりますので、大会の内容等についてはご理解をいただけてきたものというふうに考えますが、今回あったこのようなご意見については真摯に受けとめながら、今後、旅館組合とも話し合いをさせていただきたいなというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 平 英一財政課長。

○平 英一財政課長 長井市の現在の予算編成の進捗状況はとのご質問にお答えいたします。

新年度の予算編成につきましては、11月末日まで各課から要求書の提出を受け、現在、集計

を行い、きょうから一部ヒアリングに入っているというような状況でございます。

このたびの予算編成に当たっては、人口3万人に関する事業、これについて予算を優先措置するというを第1点目としておりまして、また、各課からの要求書にはそれぞれの事業ごとに優先度をつけていただきながら提出して、査定に入ろうというふうな格好でございます。

それから、議員仰せのように、いまだ地方財政対策の詳細が示されていないことから、歳入におきましては不透明な部分がある中での作業となっております。今後、国、県の動向を注視しながら、いろいろ修正等の対処をしながら予算編成に当たらなければならないというふうに考えております。以上です。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 それぞれ答弁をいただきまして、ありがとうございます。

1点目の東北高校駅伝の質問の前に、ISOについて、「十分PDCAが回されている」というお話でございましたけれども、こういうのはどうなのかなと思うのがあるんですね。例えば福祉事務所と市民課の間の棚に縄が置いてありました。縄ですね。雪囲いするときの縄です。これってISOでPDCA回してる職場環境には大変ふさわしい内容ではないのではないかと私は思うんですね。こういうのを見て、私は実際職員の意識というのが本当にそういうふうにかということになりますと、末端まではどうも浸透しているとは言いがたい。こんなことは福祉事務所長に言って、それをおろして片づけておけばそれで済むものなのかもしれないけれども、あえて私がここで申し上げたいのは、職員の意識レベルというのはそういうふうにかということをおっしゃるような望ましい方向までは至っていないことをあえて申し上げたいと思うんですよ。

+

同じように業務の棚卸し、これについても、例えば民間委託できる項目について、さっき運転手の件が事例としてありましたけれども、そういうふうに、最初、民間委託した方がいいとって挙げたものが、これはどうもそれではない方がかえっていいということであれば、やっぱりそこに見直しをかけて、そして方向性をもう一遍再検討してやるべきなのではないかと思うんですよね。市長もご存じのとおり、環境については上越市から始まって水俣市まで行ってまいりましたし、あるいはまた、ニセコ町には西東京市とか、うちでいうと第1委員会室みたいな大広間で、大勢の皆さんと一緒に研修をしてきた経緯もございますし、やっぱりそれらから、長井市の行革の基本中の基本となるべき礎みたいなものが業務の棚卸しに匹敵するんじゃないかというふうに私は思っておるものですから、あえて申し上げるわけですが、ぜひ再検討をすべきものについては再検討をしていただきたい。あるいはまた、この次、どういう形で第2ステージに進むかわかりませんが、民間の方も入れて、その意見を聞くとか、あるいはまた長井市も公開をしてやるとか、何かそういった方向をぜひ検討していただきたいと思っておりますので、まずこの点についていかがでしょうか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

蒲生議員のご指摘のそういった整理整頓と、職場の環境、これらについてはおっしゃるとおりでございます。これらについてはまだまだ努力が足りないというふうに思っております。

平成19年から進めております3S運動というものもやっておりますが、やはり最初の1年目ぐらいはいいんですが、2年、3年となりますと、どうも形骸化してしまうなど。課題は、今回の事業仕分けというよりも、蒲生議員のご指摘のそういった業務の棚卸しなどもやはり職員が一人一人自分のものとしてないという課題がある

と思うんです。どこかで決められて、それを押しつけられてるとするのがどうしても強いのかなと思っております。

今年度まだ残り3カ月ちょっとありますので、特に職員の意識を変えることも一緒にやっけていかないとだめだと、PDCAをきちっと理解してもらう前に、職員の意識を変えていくことからしなきゃいけないというふうに私は思っております。ぜひ職員の中から、これ公募で最初はしたいと思ってるんですが、職員の行動指針のようなものをつくる委員会をつくって、その中で、これから職員としてどんなことをやるべきかと、市民のためにどのようなサービスを提供するんだと、そのために自分はどんな行動をしなきゃいけないかと、自分の仕事の業務内容をどういうふうにこれからPDCAを含め見直ししていくかというところをみずから考えてもらうような仕組みづくりをしていきたいと思っております。

一方で、議員ご指摘のとおり、まだまだ徹底させなきゃいけない部分はございますので、これらも随時見直しするようにしてまいりたいと思っております。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 防災公園について、深く話をするつもりはありません。時間もないです。ただ、私は長井市の身の丈に合うものであるかどうかということが一番問題だと思うんです。公園として面的整備をすることについては何も申し上げるつもりはありませんが、コンクリート物の、そこに構造物を建てるということについて、本当にそれが適正なものなのかどうかなどについては、答弁は要りませんが、ぜひ十分検討を重ねていただきたいということをお願いしたいと思います。

それで、高校駅伝の関係で、このマラソンコースについては、黒獅子まつりのパンフレット以上に立派な黒獅子の絵が入ったパンフレット

なんです。黒獅子ハーフマラソンコースと銘打ってるんですが、おしっさまというのは出番がどこにもないというようなことで、私も獅子好きなので余計なことを言うかもしれませんが、今回、風花の民というアトラクションがあったわけですが、こういうときに、これはこれでよろしいんですけども、獅子舞なんかもぜひやって選手、チームのおはらいなどしたらもっとよかったのかなみたいなことを考えているわけなんです。これは後日の検討課題として検討していただきたいというふうに思います。

宿泊についてですが、旅館業法等で一つの決まりがあると思うんですけども、今回、旅館さんじゃないところで宿泊の事例があったわけですが、これはどういう経過でそうなったのか、教育長かだれか、おわかりになる方、お願いします。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 文化生涯学習課長の方でお答えします。

○町田義昭議長 那須宗一文化生涯学習課長。

○那須宗一文化生涯学習課長 お答えいたします。

私の知っている範囲ででございますけれども、この宿泊されたチームのお知り合いの方が、今回長井市内の方とお知り合いだということで、お願いをして宿泊されたというようなことで、そういったチームの中との関係でというふうなことのようでございます。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 じゃあその件をもう1回お聞きしますけども、もちろん料金はお支払いされてると思うんですけども、例えば「私のうちでぜひ民泊していただきたいのでお願いします」と言って選手、学校側が了となれば、それは泊めることは可能だというふうになりますか。

○町田義昭議長 那須宗一文化生涯学習課長。

○那須宗一文化生涯学習課長 お答えいたします。

例えば国民体育大会みたいなものは当然民泊

というやり方もございます。そういったものと例えば県旅館業法とのかかわりなどについて、私、十分な知識がございませんので、お答えはなかなかできないわけでございますが、例えば参加されたチームがそれなりの例えば施設を持っておられる方に泊めていただけないかということでお泊めするということはあり得るのかなというふうには思います。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 さっきホテルで9,500円、旅館で8,500円から7,500円というお話でしたよね、1泊2食つきで。それで1チームが大体どのぐらいになりますか。十四、五人ぐらい泊まるんじゃないですか。1日限りの例えば観光のお客さんも、それはもちろん大事ですけども、こういうスポーツイベントにかかわるチームの連泊というのは、長井市にとっても大変経済的な波及効果もあるんじゃないかと私は思うんですよね。さっきの説明だと民間のエージェントが仕切ってるというお話だったんですが、やっぱりもっと長井市も入れるようにして、できるだけ長井市に宿泊をしていただけるような方策を講じていくべきじゃないのかなというふうに私は思うんですよ。今回、宿泊先を見ますと、まだまだ長井市に泊まれるところがたくさんあったと思うんですよね。そういったところが入ってなくて、赤湯温泉あたりにどんどん選手が流れている。流れているという言い方はどうなのかわかりませんが、あちらの方にお泊まりになっているという姿を見ますと、もっともっと長井市に泊まっていたら、少しでも潤っていただけるようなことをやっぱり行政も考えるべきじゃないのかなというふうに思うんですけども、これは再来年23年、25年と開催が決定してるわけですから、そこへ向けて、市長、どのようにお考えか、お答えいただきたいとします。

○町田義昭議長 ここでご報告申し上げます。大

沼久議員が復席されました。

内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

蒲生議員がおっしゃる目的で長井市は受け入れをしているわけでありまして、一昨年はたしか予算が20万円ぐらいしか用意できませんでした。平成19年というのは厳しくて。ただ、ことしはもう少ししっかりとした体制をつくりながら、23年と25年までは決まってるわけですが、その後は未定です。結局今までは岩手県の大船渡市ですとずっとやってたわけですから、それを長井市ですと、少なくとも10回、20回やっていただくというような体制をつくるには、それなりの対応をしなければいけないと思ってます。ただし、今の段階であれこれ、友好的関係がまだ東北高体連と築いて残念ながら長井市はいないというふうに思って私はおりますので、最初からいろいろなこちらからの要求だけを言うというのはどうかなということで、ことしは少し様子を見たところです。あとは、やはりこれは民間の皆様にも頑張っていただきたいと。旅館組合の方には、ことしの2月にある会合にお招きいただいたときにお話をしております。ぜひ皆様も組合として全部受けられるようお願いしたいということでございますが、なかなか一丸となった行動ができなかったと思っておりますので、それらについては我々も、行政、それから観光協会も含めながら体制をつくっていかなくちゃいけないと思いますので、よろしくご指導いただきたいと思います。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 今回、当日運営にかかわった高校生、一般のボランティアの人数について、私がプログラム上で把握しますと、大体三百五、六十人、名前を記載されてる方ですね、そこにあと女性の会だとかなんとか、団体がいらっしゃると思いますので、恐らく500人ぐらいの協力延べ人数になったんじゃないかというふうに

思います。こういった多くの皆様方の協力があったこういったイベントがなし遂げられるわけですので、さっき反省点、課題の中にコンビニの関係が出ました。私も直接聞きました。コンビニへ行ってお握りか何か買おうとするけど、店頭は何にもないと、しょうがなくて白鷹まで買いに行ったというお話だったんですね。ですので、前日は開会式があるわけですが、そのときなんかお握りを売るとか、あるいはまたコンビニの店頭でワゴン車を用意して、そこに即席物を用意するかということをやっていたらいいなというふうに思います。

それと、あと時間も、最後になりますが、来年のいわゆる予選会及び女子のと、県のこれは女子の駅伝大会ですか、予選会についても、さっき教育長からあったんですが、なるべく主催者側が自主的に運営するよということをつけてするということになったというお話だったんですけども、もっともっと長井市の協力する方がいっぱいいらっしゃると思いますので、広く声かけをして、これを実施していただきたいと思いますが、最後にお聞かせください。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変ありがとうございます。ぜひ地元体協、あるいは蒲生議員が所属しておられる鉄人会なども含めて、いろんな団体のご協力をいただけるように、これからもっともっと駅伝のみならずスポーツ推進を図る、そんなまちづくりを行ってまいりたいと思います。ありがとうございます。

鈴木悟司議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位4番、議席番号2番、鈴木悟司議員。

(2番鈴木悟司議員登壇)